

佳作

「きぼう」の光

埼玉県秩父市立原谷小学校四年 渡邊敏生

七月七日、七夕の夜に、雲の間から地球のまわりをひこうする国さいうちゅうステーションが見えました。日本人うちゅうひこうしのわかた光一さんが、長期たいざい中の時でした。国さいうちゅうステーションが見える日や時間、方がくは、いつもお母さんがインターネットで調べてくれます。この日もお母さんが、

「そろそろ見える時間かな。」

とまどを開けました。雲が多かったので、見えるかどうか、心配でした。しばらく空を見ていたら、西の空の雲の間から、とんでくる星より明るいひとつの光が見えました。

「あれだね。」

「あれ。」

と弟とお母さんが言いました。

あの光の中にぼくたちと同じ日本人のわかたさんが乗っていると思うと、もう何回も見ている国さいうちゅうステーションの光がいつもとちがうとくべつなものに見えました。

「わかたさーん。」

と、お母さんと弟が、空をよこぎる光によびかけ、手をふっていました。わかたさんには見えるはずも聞こえるはずもなかったけど、おうえんするきもちは、きつとどどいていると、ぼくはしんじています。そして光はまもなく雲の中に入り、見えなくなっていました。

「今日は、わかたさんからは、日本が見えなかな。」

と言いながら、ぼくはまどをしめました。

いっしょに見ていた弟もうれしそうでした。七月十九日、国さいうちゅうステーションの日本の実験しせつとう「きぼう」が完成したというニュースを見ました。ぼくが生まれる前からつくっていたなんて、びっくりでした。

わかたさんも七月三十一日に、ぶじに地球に帰って来ました。でもほかの国のうちゅうひこうしとともに「きぼう」は、今も休むことなく地球の周りを回りつづけています。この次はいつ見られるかたのしみにしています。

小さいけれど、夜空を力強くとんで行く国さいうちゅうステーションの光は、ぼくたちの、ゆめときぼうだと思えます。そんな「きぼう」の光をぼくは地球のかたすみで、おうえんしていきたいと思えます。そしていつかはそこへ行ってうちゅうから青く光る地球を見てみたいです！